

感染の兆し スピード把握

保育園が情報入力 ネットで共有

インフルエンザなどの集団感染が起きやすい保育園で、感染の状況をいち早くつかむシステムを国立感染症研究所が作った。各保育園に、端末から子どもの感染状況を入力してもらい、インターネットで情報を共有する。厚生労働省は地方自治体を通じて全国の保育園に参加を働きかけている。

保育園では、おもちゃなどを通して園児の間で感染が広がりやすい。感染の状況はこれまで、指定医療機関を受診した数を感染研が集計しているが、1週間分をまとめるため、

状況の把握は7～10日ほど遅れることになる。

新しいシステムでは、各保育園に、園児の発熱や下痢などの症状、水ぼうそう、プール熱(咽頭結膜熱)など病気の種類、欠席などの情報を毎日入力してもらおう。

集まった情報をグラフにすると、どの病気がいつごろ流行し始めたかがひと目でわかる。病欠児が一定数に達すると、その園を担当する医師にすぐにメールで連絡される。保健所や地域の医師会も流行状況を知ることができる。

300近くの保育園で導入が始まっているが、厚労省は今後、約2万3千ある全国の認可保育所に参加を呼びかける。感染研では、3年間で8割程度の参加を目指しているほか、文部科学省を通じて幼稚園にも参加を呼びかけたいとしている。

感染研情報センターの安井良則・主任研究官は「5分程度の手間で流行の立ち上がりに早く気づける。どの病気に気をつけるべきかを、園や地域の医療機関が保護者に呼びかけられるので、感染拡大を食い止められる」と話す。

感染研のウェブサイトでデモ版(<https://school.953862.net/demo/demo>)を体験できる。ログインIDとパスワードはともに「11223」。(熊井洋美)